

# 読響

YOMIKYO  
6  
Yrs  
1962-2022

この宇宙の優しさが聴こえますか？

Mahler 9  
23 Aug

モーツァルト：ピアノ協奏曲第27番  
モザルト: Piano Concerto No. 27 in B flat major, K. 595  
変ロ長調 K. 595

マラー：交響曲第9番  
MAHLER: Symphony No. 9 in D major  
ニ長調

読売日本交響楽団 第620回 定期演奏会 2022 8.23 <火> 19:00 サントリーホール S ¥7,600 A ¥6,600 B ¥5,600 C **soluout**  
Subscription Concert No. 620 / Tuesday, 23 August, 2022, 19:00 / Suntory Hall 読響チケットセンター 0570-00-4390 (10時-18時・年中無休)

指揮 ユライ・ヴァルチュハ  
Conductor= JURAJ VALČUHA

ピアノ アンヌ・ケフェレック  
Piano= ANNE QUEFFÉLEC

欧米で華々しく活躍し、注目を浴びるスロヴァキアの鬼才

モーツァルトを得意とする現代最高峰のフランスの巨匠

# 夏に聴く、 二人の作曲家の 最期への思い

鬼オヴァルチュハと  
名匠ケフェレックの至芸に浸る



## ユライ・ヴァルチュハ 指揮

欧州と米国で華々しく活躍するスロヴァキアの鬼才。ブラチスラヴァで作曲と指揮を学んだ後、サンクトペテルブルクとパリで学び、ムーシラに師事。フランス国立管デピューを皮切りに、欧米で活躍。2009年から16年までRAI国立響の首席指揮者を務め、同年からナポリ・サンカルロ劇場の音楽監督とベルリン・コンツェルトハウス管の首席客演指揮者を務めている。22年6月にヒューストン響の音楽監督に就任する。ベルリン・フィル、ロイヤル・コンセルトヘボウ管、ドレスデン国立歌劇場管、ニューヨーク・フィル、ウィーン響、ミュンヘン・フィル、シカゴ響など一流楽団を振り、オペラでもバイエルン国立歌劇場、ボローニャ歌劇場などで活躍。今回、読響に初登場。

©Houston Symphony

作曲家にとって、最後の作品となるかも知れない創作への思いとは、如何なるものなのだろうか。

マーラーの交響曲第9番は、後期ロマン派のシンフォニスト、マーラーが1910年、結果的に最後に完成させた交響曲となった。生と死との狭間で揺れ動き、感情が激しく込み上げて己を見失いそうになる危うさに満ちている。一方で、遠い夜空を眺め、過去を懐かしみ、達観したような美しい境地が描かれていて、マーラーの世界観が凝縮された渾身の作品だ。

今回、読響初登場でこの作品を振るのは、スロヴァキア出身の鬼オユライ・ヴァルチュハ。舞台を離れると内向的な性格だと知れ渡り、若い頃からクラシック音楽界で“変人”との噂を振りまいてきた。そんな彼もキャリアを積み重ね、ベルリン・フィルやロイヤル・コンセルトヘボウ管、ニューヨーク・フィルなどに客演。今年6月からヒューストン響の音楽監督に就任するなど、欧米で目覚ましい活躍をみせている。オペラにおいてもバイエルン国立歌劇場などに客演して幅広いレパートリーを手掛け、現在はナポリ・サンカルロ劇場の音楽監督として同劇場の水準を高めた手腕が高く評価されている。

今回、彼はこの音楽史に燦然と輝くマーラーの傑作を振り、どんなサウンドを築くだろうか。作曲家が作品に込めた気持ちを丁寧<sup>よく</sup>に掬い出し、その感情を今に生きる私達に音として届けることだろう。ヴァルチュハの手腕に期待したい。

前半には、“モーツァルト弾き”として名を轟かせ、74歳となった今も精力的な活躍を続けているフランスの名匠アンヌ・ケフェレックが13年振りに読響と共演する。曲は、モーツァルトが最後に作曲したピアノ協奏曲となった第27番。流れるような自然な曲想に、諦念が滲み出る見事な作品だ。ケフェレックは、深い思索から生み出す瑞々しい音と味わい深く気品あふれる演奏により、聴衆を魅了するだろう。今や現代最高峰のピアニストの一人となった彼女が生み出す至芸をご堪能いただきたい。



## アンヌ・ケフェレック ピアノ

国際的な舞台で活躍を続けている。現代を代表するピアノの名匠。パリ生まれ。ウィーンでブレンデル、バドゥラ＝スコダらに師事。1968年ミュンヘン国際コンクールで優勝。以来、世界各地で演奏を展開。ブレーズ、ガーディナー、エッセンバウハら巨匠の指揮で、ロンドン響、フランス国立管、チューリヒ・トーンハレ管、読響などと共演。とりわけモーツァルトの瑞々しい解釈は高く評価され、映画「アマデウス」ではピアノ協奏曲を演奏して話題となった。BBCプロムス、ラ・フォル・ジュルネ、ラ・ロック＝ダンテロンなどの音楽祭に出演。40枚以上のCDをリリースし、ディアパゾン・ドール賞など受賞多数。読響とは82年、2009年に共演し、今回3回目の登場。

©Caroline Dautre

読売日本交響楽団 第620回 定期演奏会

2022年 8月23日(火) 19時開演

サントリーホール

東京都港区赤坂1-13-1 Tel. 03-3505-1001

S ¥7,600 / A ¥6,600 / B ¥5,600 / C SOLD OUT

●東京メトロ南北線「六本木一丁目」駅(3番出口)より徒歩約5分 ●東京メトロ銀座線「溜池山王」駅(13番出口)より徒歩約7分

学生券 学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証/25歳以下)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。

■都合により曲目、出演者等が一部変更される場合がございます。 ■ご購入いただいたチケットは、公演が中止になった場合以外でのキャンセル・払い戻しはできません。あらかじめご了承ください。

■未就学児のご入場は、固くお断りいたします。 ■マスク着用など、読響の「感染予防対策」にご協力をお願いします。

読響チケットセンター 0570-00-4390

\*10時-18時・年中無休

読響チケットWEB <http://yomikyo.pia.jp/>

\*座席選択可/チケット郵送料無料



プレイガイド

サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017

読響ホームページ

<https://yomikyo.or.jp/>